# ジョカツ!!

Vol.7

男女共同参画や多様性の社会といっても、まだまだ女性が少ない我々の消防という職場。
その中でキラリと輝いている女性の活躍や取組にフォーカスした【ジョカツ！！】。
不定期ではありますが、いろんな話題をお届けしていきます。

皆さま、おつかれさまです。消防局人事課　厚生担当の下野と申します。
水上消防署での船艇隊としての勤務経験を、『ジョカツ!!』で、との依頼を頂きましたので、お話させていただきたいと思います。

## ◆海への想い

私が拝命した平成14年当時、消防学校卒業後の女性吏員の配属先は予防係員のみでした。予防係員として勤務する中、初任科の水上消防署での研修で、消防艇『まいしま』に乗船させていただきました。学生時代からジェットスポーツ、水上バイクでのレース競技にはまっていた私は、この研修をきっかけに、「いつか海に関わることができる、船の乗組員になれたら」、と淡い気持ちを抱きました。

初任科でのまいしま乗船研修

## ◆船艇隊への憧れ

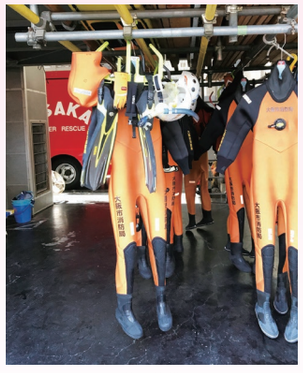
平成27年度から女性消防吏員の警防部門への配置可能職域が拡大されることになりました。それを聞いた私は、女性の従事制限が必要ない職域の中に「船艇隊」を見つけたことから、この機会を逃しては！と、職域拡大に合わせて消防司令補昇任試験を受けました。
試験には無事合格。平成27年度から水上消防署船艇隊として勤務できることとなり、初任科以来想い続けていた、船の乗組員になるという夢が叶いました。

## ◆船長として

消防艇『ゆうなぎ』は、小型船舶免許での操船が可能です。ジェットスポーツのために免許は所持していましたが、船艇隊への配置になったからといってすぐに船長として操船できるものではありません。船長教養として、操船技術はもちろんのこと、海上法規や船の仕組み、諸元、大阪市内の河川状況把握、海上及び河川の航行ルールなどを約半年間かけてご指導いただき、晴れて船長として任命されました。
消防艇『ゆうなぎ』の全てを知り尽くし、たゆまない船への愛情を持ち、「船長の心得」や「安全運航の心得」を教えてくださった大船長の皆さんには感謝しきれません。

## ◆潜水訓練

船長は、船の上から水面下で活動している水難救助隊員（DR隊員）の活動を把握する必要があるとのことで、船長教養と同時進行で潜水士の資格を取得し、潜水訓練も行いました。
素潜りでの訓練では、耳ぬきがうまくできず、酸欠から過換気になり、皆さんにご迷惑もおかけしました。
大阪の海、川の水中は、天気が悪い日や水が濁っている日は日中でも視界が10センチぐらいになることもあります。隣にいたはずの潜水隊員も少し離れると見えず、常に煙中にいるような状態の中で活動しています。さらに、夜の水面下は漆黒です。
このような潜水訓練を経験したことで、DR隊員の大阪の海や川での活動がどれだけ困難な状況下なのかを知ることができ、DR隊員へのリスペクトの気持ちを持った、船上の現場活動に繋がる貴重な経験となりました。



潜水装備



## ◆船の運用

水上には、陸上のような道路はありません。そのため、道路交通法は適用されませんが、海上衝突予防法、海上交通安全法及び港則法などの法規があります。海上では、潮位、潮流、天候、気温、風速、地形、水深、暗礁、滞留物など、様々な自然及び気象海象条件の影響を受けるため、操船の難易度もその条件により大きく変わります。
また、船には自動車のようなブレーキがないので止まりたいところで止まるなんてことは非常に困難です。
DR隊員が潜る水難救助現場では揺れる水上で、ゆうなぎ自船の潮流をできるだけ発生させず、現場付近を航行していく他船の引き波によって潜水隊員の活動に影響がでないよう、引き波を消すことも心掛けながら操船をしていました。

## ◆船への愛

船艇隊として、機械や電気の知識は全くありませんでしたが、船を運用するにあたって、船の設計図面から機嫌よく運航してくれるためのメンテナンスやトラブル回避の方法等、勉強することが多くありました。日々のエンジンの回転数の変化や冷却水の温度管理など、船長時代の私の携帯の写真アルバムは『ゆうなぎ』の記録写真ばかりでした。オイル等で爪の中が真っ黒になりながらも手をかければかけるほど船への愛情が湧き、また、船が船長の想いに応え安全航行に繋がるのが楽しくてたまりませんでした。
消防艇を所有する全国の消防本部との交流もありました。船舶火災や海難救助事案等、活発な情報共有をする中、皆さんの自船への愛の圧が強くてとても驚きました。

消防艇『ゆうなぎ』の機関場

6年間、水上消防署で船艇隊として船に携われたことは私の消防人生の宝物です。
船艇隊を離れても、消防艇2艇を運用するオンリーワン署として水上消防署を応援し続けていきます。

水上消防署桟橋にて消防艇『ゆうなぎ』

## ◆現在の私

人事課厚生担当として、消防局で働く皆さんが心身ともに健やかに、楽しく仲良く、気持ちよく働けることを目指して日々業務に取り組んでいます。
現在の主な業務内容は、衛生管理に関すること、ハラスメント対応、公務災害事務、予防接種、健康診断、健康相談、ストレスケア、病気休暇・休職事務など、多岐にわたります。
心と体の健康を維持することの難しさを、厚生担当の業務を通して痛感している毎日です。

皆さん、毎日笑っていますか？
厚生担当として健康管理に携わっていますが、皆さんを導くような大それたことは言えません。しかし、よく食べ、よく寝て、笑って、セルフケアとして毎日頑張っている自分をしっかり褒めてあげてほしいと思います。慢心はいけませんが。

消防艇『ゆうなぎ』の放水

今回の「ジョカツ!!」いかがでしたか。
性別に関係なく、様々な働き方を選択できることは、日々の成長への希望になりますね。
さて、次回はどのようなお話を伺えるのでしょうか。お楽しみに。

# 救急現場を支える「見えない力」
## ―地域メディカルコントロール体制の舞台裏―

### はじめに

救急活動の安全性と質を保障するため、医師と救急隊、関係機関が連携し、都道府県や市町村単位で「地域メディカルコントロール体制」（以下、「MC体制」）が構築されています。その目的は、現場で活動する救急隊員が、より的確で安心安全な処置を行えるよう支援することにあります。

今回は、MC体制及び大阪市における地域MC協議会（以下、「地域MC協議会」）、毎月実施されている検証会議等、現場を支える「見えない力」の仕組みをご紹介します。

### MC体制を支える4つの柱

MC体制は、救急隊員が行う活動の安全性・質を保障するため、医師が中心となって救急活動の指導・助言・検証・評価を行う仕組みです。

具体的には、「①医師から救急隊への事前指示書であるプロトコルの策定」「②救命士に対する指示・指導・助言・体制の整備」「③救急活動の事後検証の制度的な基準の作成と運用」「④救命士の生涯教育体制の整備」からなり、これらをPDCAサイクルとして繰り返しながら、業務内容を見直し改善していきます（図1）。

### 地域MC協議会の役割

地域MC協議会は、大阪市内の主要な医療機関の医師、消防及び大阪府の関係部局で構成されています。各年度の報告のほか、活動要領の見直し、プロトコルの改正などが話し合われます。

大阪市消防局内で開催された「地域MC協議会」
（令和7年10月20日開催）

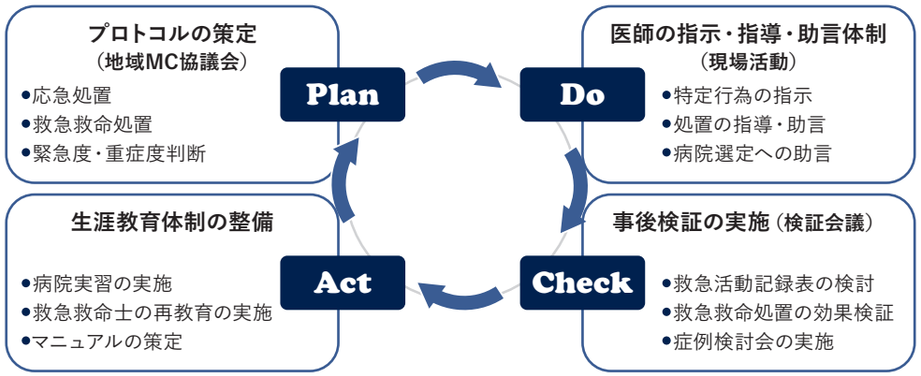



**図1　メディカルコントロール体制とその役割**

PDCAサイクルは、plan（計画）、do（実行）、check（評価）、act（改善）の4つのステップを繰り返し実行し、業務内容を見直し改善する取組です。



### 検証会議の役割と仕組み（図2）

MC体制のCheck部分である「事後検証の実施」については、毎月開催している検証会議で「実施基準検証」と「救急活動検証」に大別して検証しています。

**■救急活動検証**

救急活動検証は、救急隊の活動内容を事後的に評価・検証することで、活動の妥当性を確認し、改善につなげることを目的としています。その結果は、教育内容の見直しや、プロトコルを改正する際に活用されます。

**■実施基準検証**

実施基準検証は、ORIONの入力が反映されている実施基準検証票及び救急活動記録を用いて行われます。その結果に基づき、「救急隊によるORIONの入力や医療機関側の応需対応は適切に行われているか」「ORIONのシステム上の問題はないか」等について、検証医を交えて検証し、傷病者の受入体制改善につなげています。

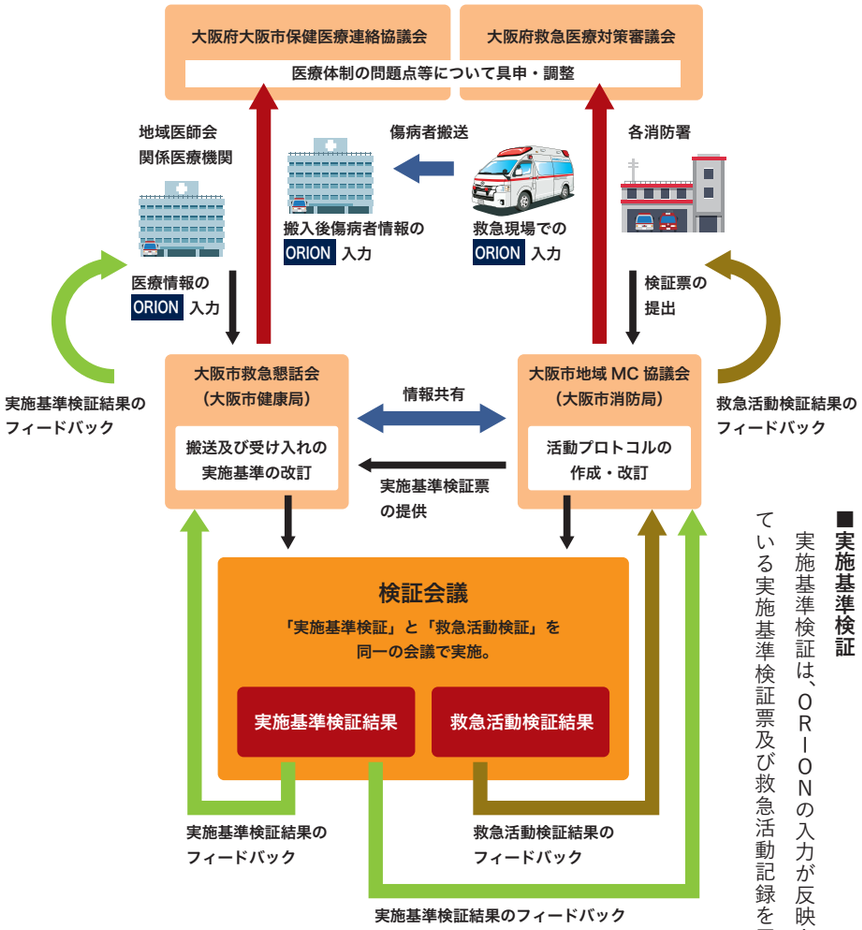



**図2　検証会議の役割と仕組み（救急活動及び実施基準の検証等）**

### 実施基準を理解してORION入力を確実に！

救急現場でデータ入力に用いられるORIONは、実施基準に基づく活動をサポートするアプリです。まずは大阪府のウェブサイトに掲載されている「傷病者の搬送及び受入れの実施基準」（本則及び細則）を確認し、実施基準の理解を深めたうえで、ORIONの確実な入力につなげていきましょう。

### おわりに

MC体制への理解を深めることは、傷病者の安全と救命はもとより、現場で活動する救急隊の皆さん自身を守ることにもなります。しっかり理解し活用することで自信を持って現場に臨むことができ、市民からの信頼や組織活動の安全性も高まります。今後も、MC体制のPDCAサイクルの4つのステップを繰り返し実行し、質の高い救急活動を目指していきましょう。

# 実録!!調査鑑識

Vol.41

## 令和７年度 火災調査事例発表会

Osaka Fire Survey and Investigation

「調べて、広めて、市民を守る。」

今年も「大阪市消防局火災調査事例発表会」が開催されたよ！見事、全署（25署）から応募いただいた中から選ばれた5署5事例の発表者が、約2か月間の準備を経て発表し『中央消防署』が最優秀に選ばれたよ！

**10月28日火曜日　日直　けんた　ひでみつ**

※二次元コードを読み取ると発表動画を視聴できます。

● 発表順位1番　中央消防署
「2件の火災は1件の漏電火災！～無電柱化道路沿いの建物にて～」
発表者　消防司令補　前田　始紀　　補助者　消防士長　　福元　太成

● 発表順位2番　天王寺消防署
「日本初！！ 電気自動車火災」
発表者　消防司令補　坪田　真人　　補助者　消防士長　　青木　大斗

● 発表順位3番　東住吉消防署
「ドラム缶にノルマルヘプタンを詰め替え爆発」
発表者　消防司令補　奥田　剛　　補助者　消防司令補　谷口　健太

● 発表順位4番　西消防署
「静寂を破る炎～下水処理施設における爆発火災の脅威～」
発表者　消防司令補　角田　俊浩　　補助者　消防司令補　松村　勇人

● 発表順位5番　生野消防署
「飛び火による被害拡大～飛び火がもたらす防災意識～」
発表者　消防司令補　吉川　久嗣　　補助者　消防司令補　小阪　知也

### 中央消防署　最優秀

鉄筋コンクリート造８階建　複合用途建物において、外壁の防水用プリカチューブ及び屋上の低圧用プルボックスの２箇所が焼損した火災。

焼損箇所は20m離れており、２件の火災と思われたが…その後、複数回における実況見分・実験により、関連性を粘り強く調査し、無電柱化及び建物の老朽化による漏電が出火に起因していることをつきとめた事例。

今後もインフラ整備により増えていく無電柱化、その老朽化による類似火災の防止に大きく貢献する内容で、複数回の鑑識の結果を順序立てて説明しており、とても分かりやすい事例発表でした！

### 天王寺消防署

日本初、電気自動車の火災事例。前例のない火災であったが、当局で定めていた事前計画により、火災発生から水密コンテナでの水没処理による鎮火。その後の安全確認まで滞りなく行われ、調査活動に移行できた事例。

電気自動車の仕組みを分かりやすく解説し、消火方法・検知方法・一時保管場所についての検討と課題もしっかりとされていました。今後も増加が予想される電気自動車。全国の消防に対して情報の共有や発信に繋がる事例発表でした！

### 東住吉消防署

危険物取扱所において、天井及び内在品若干焼損した火災。第4類危険物のノルマルヘプタンを詰め替える際に、注がれていたドラム缶がゴム製マット上のローラーコンベアに置かれていたため、ドラム缶が帯電する状態でした。発火源の静電気はどこから…？

静電気の発生する仕組みから流動帯電で火災は起きるのかを実験を交えて調査し、再発防止対策もしっかりと広めて、市民を守る素晴らしい事例発表でした！

### 西消防署

鉄筋コンクリート造平家建 抽水所雨水滞水池で起きた爆発火災の事例。車両が横転する程の爆発で広範囲に被害が及び、全国的にも注目されました。なぜ爆発が２回起きたのか、着火物であるガスがどこからどのように発生したかを理論的に解説し、聞き入ってしまう発表内容でした！

また写真撮影時の位置や物品の位置が図で明示されており、とても理解しやすかったです！再発防止策により、本施設及び大阪市内だけでなく全国の類似施設での火災予防になる事例発表でした！

### 生野消防署

木造２階建　長屋（一次現場）と、115m離れた木造２階建　長屋（二次現場）での火災。一次現場で消火活動中、近くの場所で火災が！

放火も疑われる中、残渣の飛散状況や二次現場の建物状況の調査、過去の事例から飛び火による火災と究明した事例。大阪市は全国でも有数の木造密集地域であることや空家数の増加等、飛び火による火災の危険が高い中、再発防止のため地域住民の方と防火意識を高め合うことの大切さを再認識する、とても勉強になる事例発表でした！

## 3日　入校式

10月

### ようこそ！　消防学校へ

秋の訪れを感じる10月2日、消防学校では第119回初任教育生の入寮日を迎え、今期は14の消防本部から総勢147名が入校しました。

初任教育生は、期待と不安を抱えながら、いわき寮へ荷物を搬入しました。その後、息つく間もなく、入校式の練習を行います。

消防訓練礼式の各個動作や号令に戸惑いながらも、何度も繰り返しリハーサルを行い、10月3日の入校式当日には多くの来賓の方々の前で、147名が堂々とした品位ある姿を見せました。

そして、16日には任命式が行われ、総代、小隊長、班長、女子学生代表が任命され、中島学校長から辞令を受け取りました。

この119期147名の総代を務めるのは、枚方寝屋川消防組合消防本部の足立学生です。第1小隊長は、島本町消防本部の河学生、第2小隊長は、枚方寝屋川消防組合消防本部の奥田学生、第3小隊長は、大阪市消防局の前畑学生、第4小隊長は、大阪市消防局の矢野学生、女子学生代表は、吹田市消防本部の梅本学生となります。

## 16日　任命式

## 最優秀小隊　第1小隊

体力

判断力

注意力

優勝班　第23班

チームワーク

### 固い絆が生まれました

24日には、消防活動に必要な体力、判断力、注意力、チームワーク等を養成するため、山岳徒歩訓練を実施しました。

本訓練は、地図とコンパスを頼りに飯盛山や権現の滝等の各ポイントを正確に通過し、12Km先の「キャンピィだいとう」を目指します。

無事に全員がゴールし、第1小隊が最優秀小隊となり、優勝班は23班でした！ゴール後は、「キャンピィだいとう」付近や山道の清掃活動を行い、山岳徒歩訓練を終了しました。

次号以降も、119期147名の成長過程をお届けします。ご期待ください！

## 24日　山岳徒歩訓練

## 茨木市消防本部

### 行動規範「茨消ウェイ（いばしょう）」を策定しました

茨木市消防本部では、ハラスメント等を防止し、多様性を尊重しながら組織成果を最大化するため、消防職員に共通して求められる行動等を示した行動規範「茨消ウェイ」を策定しました。

令和５年度より、中核となる共通の価値観「コアバリュー」を、各課・各分署で策定し運用してきましたが、これを体現するために、暗黙知として受け継がれてきた消防の信念や使命感等を抽出し、体系的に理解できるよう言語化したものがこの行動規範になります。

「茨消ウェイ」の「ウェイ（WAY）」には、方向・方法・道などの意味があり、各企業の行動指針などに用いられています。茨の道を乗り越えるといった意味も込めつつ、当消防本部の愛称である「茨消」を用いることで、覚えやすく親近感のある名称としました。この「茨消ウェイ」をもとに、各職員が果敢に挑戦し、自身の成長を実感できる職場風土の醸成に取り組んでいきます。

↑詳細はこちら（茨木市 HP）

## 大東四條畷消防本部

### 消防活動を支える高機能消防指令センター

当消防本部では、あらゆる災害から市民の生命・財産を守るため、最新の「高機能消防指令センター」へ更新を行い、令和7年4月1日から本格運用を開始しました。

当指令センターでは、最新のシステム監視装置により、24時間３６５日障害に強い機器構成で安定稼働が可能となりました。また、NET119やFAX119のほか、外国人に対応した三者通話機能を導入し、多様な緊急通報の受信体制が確立しました。さらに通報の受信から連動した指令システムにより、現場到着時間の短縮や関係機関等とのスムーズな連携が可能になるなど、現場活動を支援する体制が充実強化されました。

今後、さらなる増加が予想される救急需要や、複雑・大規模化する災害に備え最先端技術を駆使し、万全の体制で業務に取り組んでまいります。

## 堺市消防局

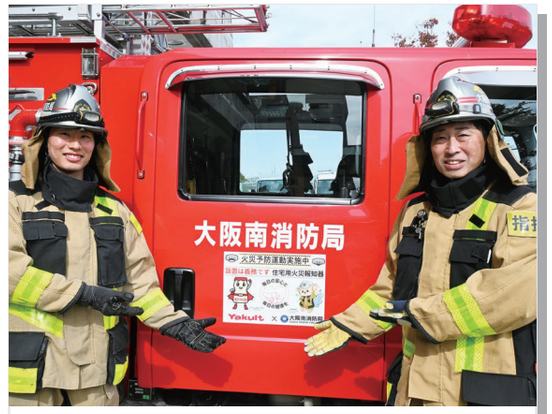
### 「DRIVE　RECORDER119」を導入

堺市消防局では、令和５年10月25日からトヨタ自動車株式会社と共同で「選択した車両のドライブレコーダー映像を閲覧できるシステム」の実証実験を行ってきました。

そして、全国初となるシステム「DRIVE RECORDER119」（ドライブレコーダーいちいちきゅう）を令和7年4月1日に本格導入しました。

これまでは高層ビル屋上カメラによる「消防用高所監視施設」や、119通報者等のスマートフォンから送信される動画映像を活用する「映像通報119」を運用しておりました。今回導入した「DRIVE RECORDER119」は、災害現場付近を走行した車両のドライブレコーダー映像を確認できる新たなシステムとなります。

本システムを第三の視覚として活用し、災害現場の状況をより早く、正確に把握し、「現場到着時間の短縮」「要救助者への素早いアプローチ」「早期の消防部隊増強判断」「二次災害の防止」等に繋げます。




## 大阪南消防局

### 大阪東部ヤクルト販売株式会社と協定締結

大阪南消防局では令和7年8月7日に大阪東部ヤクルト販売株式会社と「火災予防及び予防救急に関する連携協定」を締結いたしました。

この協定は大阪南消防局が目指す「安全・安心なまちづくり」と大阪東部ヤクルト販売株式会社が企業ビジョンに掲げる「未来体験応援企業®」に基づき、両者が連携・協力して火災予防及び予防救急への取り組みを推進し、住民の安全・安心なまちづくりに資することを目的としています。

秋の火災予防運動週間では、ヤクルト公式マスコットキャラクター「ヤクルトマン」と大阪南消防局マスコットキャラクター「だいなんくん」がコラボした住宅用火災警報器の設置を促すステッカーを、ヤクルトが使用するバイクや自転車へ貼付するとともに、消防車両へマグネットシートも掲出し、広報活動を実施しました。

今後も協定に基づく継続した活動を続けていき、安全・安心なまちづくりを目指してまいります。